

1. 本校の研究について

- ◆本校では、平成17年度より6年間、道徳教育の研究を通して児童の内面的な資質を高め、道徳的実践力を培ってきました。その研究成果を継承しつつ、平成23年度より「特別活動」における「話し合い活動」に取り組み、児童の自主的・実践的な態度を発揮できるよう研究を進めています。
- ◆互いの意見を伝え合い、折り合いをつけながら解決して意見をまとめていく児童が育ちつつあります。「どんな思いをもって、何のために話し合うのか」をより大切に、「児童自らが課題を見出し、解決するために話し合い、そして実践していく話し合い活動」を目指した研究を進めているところです。
- ◆「話し合い活動」における一定の成果と、その手法を継承しつつ、「話し合い活動」で培った力を教科の学びに生かすこと、一人一台のタブレット端末を各自の「文具」として効果的に活用することで、さらなる学力向上につなげることを目指しています。

2. 研究の構造

A: 児童の話し合い活動を柱とする。 (“サンタ”〈3た〉の実践)

- ・「楽しいこと」をめいっぱいする (例) お楽しみ会をしよう
- ・「ためになること」も少しずつしていく (例) 下級生に喜んでもらえる遊びを考えよう
- ・「高め合うこと」も取り入れていく (例) 運動会がんばろう会を開こう

B: 道徳の時間の積み重ねと、三大大事における道徳の視点の重点化

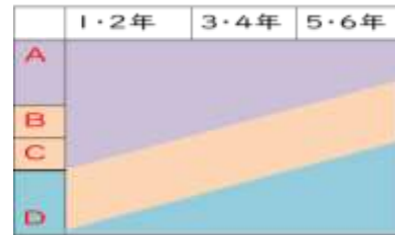
- ・毎週1時間を大切に、三大大事(運動会・遊び大会・6年生を送る会)との関連を図る

C: 日々の学校生活や行事等における児童の実践とふり振り返り

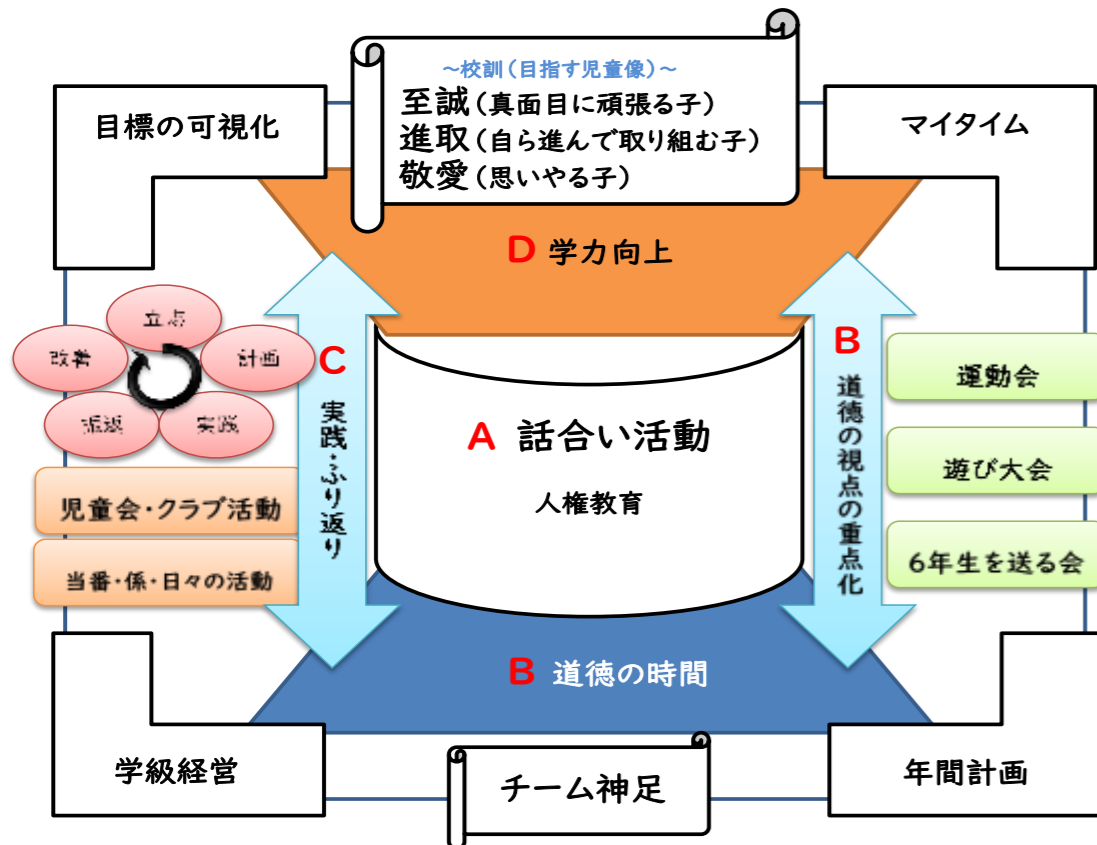
- ・自ら進んで動き出し、集団や自己を振り返る

D: 教科のねらいを達成するための話し合い

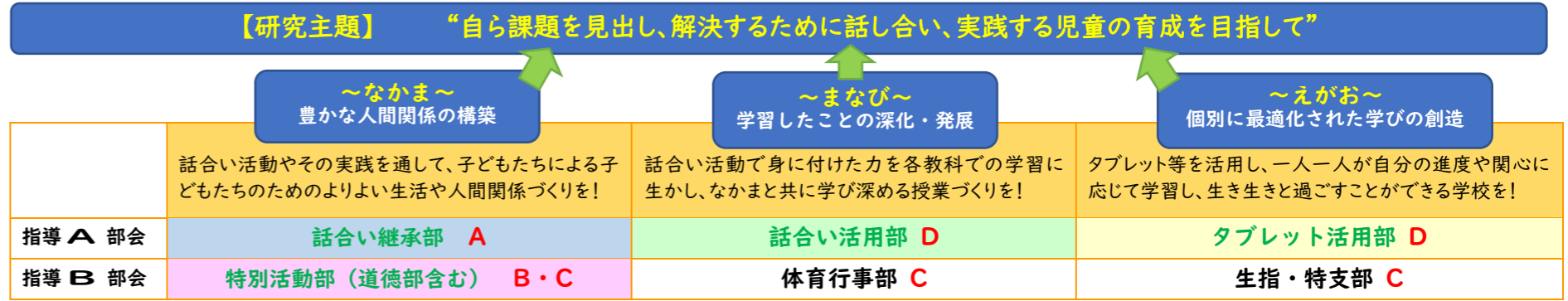
「学年の研究内容の重点化」⇒



↓ 「研究構想図」



3. 研究体制 (A~Dの柱を相互に関連させながら各部で研究を推進、緑色の部で「研究推進部」を構成)



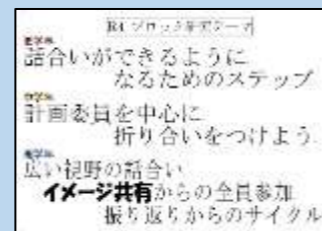
4. 活動内容

「話し合い継承部」

- ・話し合いオリエンテーションの計画(4月)と支援
- ・年間目標の設定と掲示(話し合い活動で付けたい力)
- ・授業研(重点研・ブロック研・外部など)の計画
- ・低・中・高学年ブロックで研究テーマを設定・ブロック研の実施
- ・話し合いグッズの整備・配布
- ・話し合いのスタイル(議題提案・提案理由・めあて・計画委員の指導など)の確認
- ・学級活動に関する児童実態アンケート(12月)の実施と分析
- ・「学級力」の分析
- ・マイタイムの活用
- ・話し合いボード設置と整備(掲示例の紹介、交流する機会の設定)

＜成果＞ 全校での継続的な取組により、話し合いのスタイルが定着し、提案理由に沿ってよりよい生活や人間関係をつくらうとする姿勢が、児童の言動に表れている。

＜課題＞ 議題について一人ひとりがおもひや願いを本音で話し合うことを通して、自己決定や集団決定をし、実践する経験を重ねていく。



↑ ブロック研究テーマ 学級会ノート例 ⇒



↑ 各学級の話し合いボードに掲載 ↓ 全校一致した話し合いの流れ

- 「話し合いの流れ」
- ①賛成意見を出し合う。
 - ②賛成が出なかったものを下げる。
 - ③心配意見を出し合う。
 - ④心配が出なかったものを決める。
 - ⑤心配を1つずつ解決する。
 - ⑥折り合った意見を決める。

↓ 「学級力」を可視化



「話し合い活用部」

- ・教科のめあてを達成するための話し合いの研究
- ・学習規律の確立や授業向上のための授業スタイルの提案
- ・年間学習目標の設定と掲示(学年ごとの話す・聞く目標) ↓
- ・環境整備(声のものさし・話型など)
- ・学力分析(夏季校内研)
- ・マイタイム(毎日20分間の帯の時間)の活用
- ・学習の手引きの提案と配布

＜成果＞ 自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりする中で、考えを①比べる②分類する③合わせることや、④新たな考えをもつことができつつある。

＜課題＞ 形式的な話し合いにならず、自らの疑問を解決したり考えを深めたりする手段の一つとして、自らが必要性をもって活用できるよう、実践を重ねていく。



↑ 教科学習での話し合い原稿



「聞き力」を育てる取組

↓ 目指す方向性の共通確認

